

国立国会図書館



関西館 10周年を迎えて 3

図書館サービスと e 戦略 関西館開館10周年記念国際シンポジウム

天沢退二郎さんに聞く —21世紀の宮沢賢治—

2013.3
No. 624

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の閉室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

3 March

CONTENTS

- 02 ときにみんなみのぶのごりやく 当南身延妙利益 歌舞伎の辻番付草稿
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 関西館10周年を迎えて 3
- 05 国立国会図書館関西館開館10周年記念国際シンポジウム
図書館サービスとe戦略
- 14 日本の子どもの文学 国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み
- 16 天沢退二郎さんに聞く —21世紀の宮沢賢治—
- 25 郷土の歴史を残す 復興支援活動としての吉田家文書本格修復

31 館内スコープ

少数精鋭「R本」

32 本屋にない本

○「ブレーキングニュース AP通信社報道の歴史 AP通信社の記者たちは戦争、平和、世界のニュースをいかに取材し報道してきたか」

33 ND L NEWS

○国際政策セミナー「2012年アメリカ大統領選後の日米関係の展望」

34 お知らせ

- デジタル化資料の追加公開について
- 平成25年度国立国会図書館職員採用試験
- 平成25年度図書館情報学実習生を募集します
- 4月1日から図書館間貸出資料の受領通知が必要になります
- 国際子ども図書館講演会「私が子ども時代に出会った本——落合恵子」
- 本の万華鏡（第12回）「紙の上の旅・人・風俗——江戸の双六一」
- 「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」の本格サービス開始
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

今月の一冊 March

国立国会図書館の蔵書から

ときにみんなみのぶのごりやく
当南身延妙利益

歌舞伎の辻番付草稿

伊藤 りさ

写真1



写真3



写真1 「絵番附草稿」
写真2 実際に刷られた完成版の番付
(早稲田大学演劇博物館所蔵 ro22-00022-0046)
写真3 番付「壮色双蝶蝶」部分(写真2の拡大)
「姉おせき」になっている

写真2

これは、安政4(1857)年8月に江戸・森田座で上演された歌舞伎『当南身延妙利益』の辻番付の草稿である(写真1)。

江戸時代、歌舞伎の興行のたびに出される番付には大きく三種類あった(ここでは江戸歌舞伎の場合を述べる)。まず出されるのが「辻番付」で、これは開場前に市中の人の集まる所に貼ったり、轟真先に配ったりした。宣伝ポスターのようなものと考えればよいだろうか。「役割番付」は冊子で、演目・配役が確定してから作られ、劇場や芝居茶屋などで売り出された。劇の粗筋も知りたいという向きには「絵本番付」がある。20ページ前後の冊子で、絵と短い文章で筋が説明されており、公演が始まった後に売られていた。

この番付草稿は『当南身延妙利益』上演の際のものだが、目を皿のようにして探しても「当南身延妙利益」の文字は見当たらない。それもそのはず、大名題(公演のメインとなる作品のタイトル)を書くべきスペースは空白で、「大名題 名だいのかたりずいぶん省略」と朱筆で指示がある(写真1①)。実際に刷られた完成版の番付(写真2)と比べてみるとわかりやすいだろう。ちなみに、完成版で大名題の右側にはみ出している部分は大詰に演じられた浄瑠璃の情報で、外題(「こいぞつもるみのりやまかせ恋積経山風」)、役割、浄瑠璃太夫等が書かれているが、草稿ではここも「富本れん名 名だい此所へ」とされ(写真1②)、細かい内容は省略されている。

この草稿について、当館の目録では「絵番附草稿」をタイトルとし、注記に「当南身延妙利益」と「壮色双蝶蝶」を記録している。『はなのいろふたつちようちよう壮色双蝶蝶』は『当南身延妙利益』に続けて上演された二番目(世話物)のタイトルなので、本来であれば一番目(メインの作品)である『当南身延妙利益』を資料自体のタイトルとするのが望ましいのだろうが、書かれていないものを目録のタイトルに記録することは難しいので、これは致し方ない。また「絵番付」という語は「絵本番付」の別称として用いられるのが一般的で、「辻番付」の草稿である本資料にはいささかふさわしくない名

称であるが、こちらも資料自体(書き題簽)に書かれてあるのでこのようにならざるを得ず、目録の記述からだけでは、この資料の性格を正しく把握するのはなかなか難しいかもしれない。

草稿と完成版とを比べてみよう。構図については、草稿の指定がほぼ忠実に再現されているのがわかる。『壮色双蝶蝶』の部分で、草稿では幻竹右衛門となっている(写真1③)のが姉おせきになっている(写真3)が、演じるのはどちらも団蔵なので、この場面に登場する役が変更になったということだろうか(なお、役割番付には「幻竹右衛門」という役名はない)。周囲の枠に描かれた「井桁に橘」は、『当南身延妙利益』が日蓮の一代記を題材としていることに因み、日蓮ゆかりの紋を配したもの(大名題の上に小さい字で書かれたカタリにも「軒の井桁に橘の奇瑞」云々と読み込まれている)。この部分も、草稿右端では「廻りわく祖師[カ]御紋ちらし」との指示を付けて絵入りで丁寧に書いている(写真1④)のが、左に進むにつれて簡単になり、左端では色も塗らずに「わく(「井桁に橘」の図)ちらし」と朱筆で書いてすませている(写真1⑤)¹。

当館では『当南身延妙利益』に関係する草稿をもう一点所蔵している。この時代には歌舞伎作品を素材とした合巻が多く作られたが、『当南身延妙利益』も柳水亭種清によって合巻に仕立てられている。その『当南身延御利益』第二編の草稿本が当館にあり、作者による絵の構図の指定などを見ることができる²。

(いとう りさ 総務部総務課)

『繪番附草稿』[安政4(1857)年][写]
1 舗 35.6×50.3cm(折りたたみ25.2×17.9cm)
<請求記号 寄別6-3-4-6> ※東京本館所蔵
※「国立国会図書館デジタル化資料」で閲覧可能
(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1307084>)

¹ この『繪番附草稿』は、本誌508(2003年7月)号でも紹介している。
² この草稿については、『稀本あれこれ 国立国会図書館の蔵書から』(国立国会図書館編著、出版ニュース社、1994)に掲載されている。



関西館10周年を迎えて 3

国立国会図書館関西館は、2002年の開館以降、「近代デジタルライブラリー」や「インターネット資料収集保存事業（WARP）」に代表される、様々な電子図書館サービスを実施してきました。開館10周年を機に、次の時代の図書館サービスの戦略を探るため、2012年11月9日に国際シンポジウム「図書館サービスとe戦略」を開催しました。今回はこの内容をご紹介します。



国立国会図書館関西館開館10周年記念国際シンポジウム 図書館サービスとe戦略



シヨーン・マーティン氏

第1部 基調講演

● 英国図書館の「展望2020 & 戦略2011-15」

第1部では、マーティン氏が「2020年の図書館サービス」を見据えた英国図書館の戦略と実践について、各部門責任者へのビデオインタビューを織り込みながら、基調講演を行いました。

英国図書館が2010年に策定した「展望2020 & 戦略2011-15」では、英国図書館の使命と2020年に向けた展望を右のように定めています。

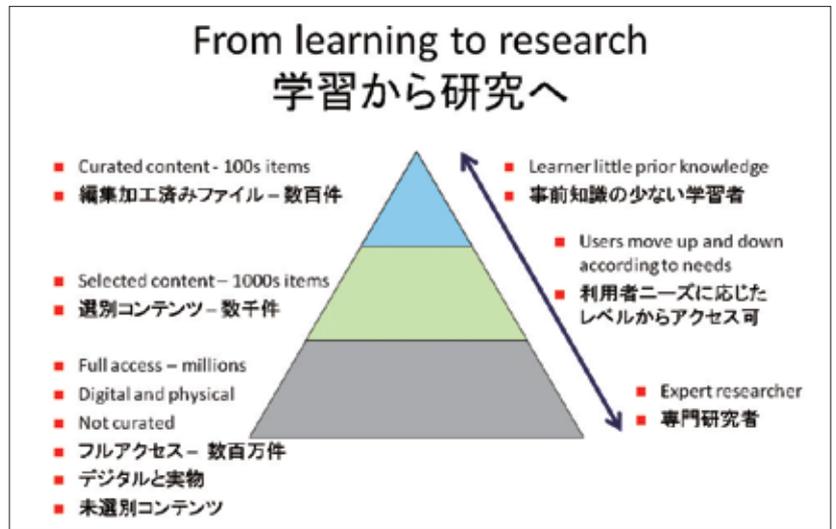
BRITISH LIBRARY

Our Mission and Vision 使命 & 展望

- Our Mission – 使命
 - Advancing the World's knowledge.
 - 「世界の知識」を拡大させる
- Our vision – 展望
 - In 2020, the British Library will be a leading hub in the global information network, advancing knowledge through our collections, expertise and partnerships, for the benefit of the economy and society and the enrichment of cultural life.
 - 2020年までに大英図書館は、経済、社会、文化への貢献を目指してコレクション、専門知識、パートナーシップを通じた知識の拡大をすすめ、世界の情報ネットワークをリードするハブとなる

英国図書館の5つの戦略的優先事項

- 戦略1 : 資料へのアクセスを次世代へ保障する。
- 戦略2 : 調査したい全ての人にアクセスを提供する。
- 戦略3 : 主要分野の研究者コミュニティを支援し、社会・経済へ貢献する。
- 戦略4 : 英国の文化発展を促進する。
- 戦略5 : 連携協力を推進し、世界の知識基盤構築を先導する。



この使命と展望を達成するため、英国図書館は5つの戦略的優先事項を実践しています。

戦略1を実現するための1つの施策は、英国内で出版される電子情報を収集するため、法を整備することで、これは2013年には実現します。電子情報には、約800万に上るウェブサイト、電子ジャーナル、電子書籍が含まれます。また、新聞書庫の建設プロジェクトにも取り組んでいます。戦略2の実現のためには、研究者に向けて、デジタル情報の新しい利用方法を提案し、デジタル学術研究を推進する試みのほか、Googleと協力した所蔵資料のデジタル化・翻訳プロジェクトも行っています。戦略3については、英国図書館が長年取り組んできたビジネス、知的財産に関する情報サービスが一例として挙げられます。また、カタル財団との連携による新しい研究コンテンツの作成についても現在取り組んでいます。戦略4の具体的な施策としては、一般市民向けイベントの開催や教育課程に沿ったデジタル資源の提供に力を入れています。これは、一握りの専門家しか理解できない難解な資料を、多くの人が理解で

きるようにするためであり、その一例が、「イングリッシュ・オンライン」です。戦略5の具体的な施策としては、Google等民間企業との連携のほか、ヨーロッパの類縁機関との連携協力が挙げられます。

● イングリッシュ・オンライン

「イングリッシュ・オンライン」は、英文学の学習・研究のための生涯学習ポータルです。英国図書館が所蔵する書籍、手稿、書簡、日記、ポスター、写真、新聞、地図等の中から、英文学史の社会的・歴史的・政治的背景の学習を支援する一次資料のデジタル画像のほか、それらについての専門家による論文、解説ビデオなどにワンストップでアクセスすることができます。2014年に公開を予定しており、第一期はジェーン・オースティン (Jane Austen, 1775-1817)、チャールズ・ディケンズ (Charles Dickens, 1812-1870) 等が活躍した19世紀が対象で、約7千点のデジタル画像を搭載する予定です。コンテンツには、動画やポッドキャスト、ブログ等のソーシャルメディアを組

み入れ、ユーザが積極的に関わられるようにします。7千点は決して大きな数ではありませんが、その他の膨大な英国図書館所蔵資料への入口です。将来的には、シェイクスピアや中世文学にも対象を拡大していきます。事前知識の少ない学習者向けに編集・加工された数百点のコンテンツから、数百万点の未編集・未選別の専門研究者向けコンテンツまで、階層的に整備し、利用者が自分のニーズに合ったレベルから資料にアクセスできるように設計しています。このように段階的にユーザを導くということは図書館にとって新しい挑戦であり、デジタル環境がそれを可能にしました。

● カタール財団とのパートナーシップ

戦略3の実現のため、国際的なパートナーシップの開拓に精力的に取り組んでおり、現在、カタール財団との連携が進行中です。英国図書館が所蔵する旧インド省文書、湾岸地域の歴史資料、アラビア科学の資料等約50万点を提供する包括的なオンライン研究データベースおよびインタラクティブなポータルサイトの構築を10年計画で進めています。第一期に旧インド省の行政文書の大部分について、英語とアラビア語で目録を採り直しつつ、デジタル化を行う予定です。プロジェクトの遂行に当たっては、カタール国立図書館と協力し、英国図書館のシステムの変更も行います。これらの資料については、今後の規格作りに貢献するような高水準のメタデータを付与することを予定しています。このプロジェクトには英国図書館内の部門横断的な協力が必要であり、組織運営の点からも大きな挑戦です。

● ニュース&メディア研究の拠点へ

また、英国図書館は世界最大級の新聞コレクションの所蔵機関でもあります。16世紀以来の新聞の蓄積があり、現在も英国およびアイルランドの新聞1,259紙を納本制度で収集し、海外紙は242紙を継続して購入しています。しかし、現在、ニュースの流通が、紙媒体からデジタル媒体へと急速に移行している中で、今後も包括的なコレクションを維持し、誰にでも利用可能にしていくことは、戦略1、戦略2の視点からの課題です。

現在、新聞資料の保存環境向上のため、利用頻度の高い主要紙を除き、ロンドンから300キロメートル北にあるボストン・スパ館に新設された新聞書庫への移転作業を行っています。現在はロンドンで原紙かマイクロフィルムで提供している新聞資料を、移転後はデジタル形態で提供することとし、館内のパソコン、タブレット端末のみならず、モバイル機器によっていつでもどこからでも、新聞社やBBCのニュース動画やマルチメディアのニュースソースと一緒に利用できるように環境を



英国図書館ボストン・スパ館（ウェスト・ヨークシャー） 一番左の建物が新設された新聞書庫
Image courtesy of British Library Board

整備していく予定です。それにより、英国図書館を、ニュース・メディア研究の拠点として確立します。

古い新聞のデジタル化のため、民間のデジタルメディア出版社と提携しています。提携出版社は、英国図書館が所蔵する18世紀から20世紀の新聞資料のデジタル化とデータ保存の費用を負担する代わりに、作成したデジタル画像へのオンラインアクセス権を世界中の顧客に対して販売することができます。しかし、原紙の提供機関である英国図書館の閲覧室では無料で利用できるようにしなければなりません。英国図書館が所蔵する新聞資料のうち、まだ著作権の保護期間の満了していないものについては、デジタル化にあたり、この出版社が英国図書館に代わって著作権処理をしています。

● ウェブアーカイブ

英国図書館では2001年からウェブサイトの収集に取り組んできましたが、2011年によく本格的な運用の段階に入りました。現在は、特定テーマごとに選択的に収集していますが、2013年にはukドメインサイトの制度収集を開始します。ウェブアーカイブによって収集された大量のデータを資源とすれば様々な情報分析が可能になります。たとえば、ウェブサイト上での出現頻度を比較して、村上春樹とカズオ・イシグロの英国における知名度を比較することが可能です。従来、ウェブサイトを収集・保存する意義は、個別のウェブサイトの変遷の記録という文脈で語られてきましたが、今後は、情報分析の資源としてのコレクション全体の価値に注目されるようになるでしょう。英国図書館も、「ビッグ・データ」¹としてウェブ

アーカイブ・コレクションを利用する機能を提供していきたいと思っています。国立国会図書館も参加するIIPC²では、世界40数機関のメンバーで共通の課題や関心事項に取り組んでおり、ウェブアーカイブに関わる規格やソフトウェアの開発を共同で行っていて、英国図書館も積極的に活動に参加しています。

2016年までに、英国図書館は、英国ウェブアーカイブの中心拠点となり、ウェブアーカイブが多様な学術領域で利用されるよう環境を整えること、そしてウェブアーカイブを英国図書館の目録に登録し、長期保存のためのデジタル・ライブラリー・システムに取り込むことを目指しています。



UK Web Archive (http://www.webarchive.org.uk)

● 英国図書館デジタル・ライブラリー・システムと標準画像ビューアー

以上が主要なプロジェクトですが、最後にそれ以外の英国図書館の活動について触れましょう。

まず、英国図書館のデジタル・ライブラリー・システムでは、1つのデジタルデータについて、ボストン・スパ館（ウェスト・ヨークシャー）、セント・パンクラス館（ロンドン）、スコットランド国立図書館、ウェールズ国立図書館の4拠点でコピーを保存しています。また、これらのデータは、上記4機関にケンブリッジ大学図書館、オックスフォード大学ボードリアン図書館、ダブリン大学トリニティー・カレッジ図書館を加えた計7機関からアクセスすることができます。今後は、電子出版物、ウェブサイトの制度収集と所蔵資料のデジタル化によってコンテンツ量が大きく増え、2020年までに4拠点で各4.5PB³、合計20PB程度になると予想されますが、これは現在の20倍の情報量です。

もうひとつ英国図書館が他機関と連携して取り組んでいるのは、標準的な画像ビューアーの開発です。米国スタンフォード大学やノルウェー国立図書館等7機関がパートナーです。各機関がそれぞれ開発するデジタル画像のビューアー間に互換性がないために生じる問題を解決すべく共通のインターフェースの開発に取り組んでいます。

ビデオレターによるスペンス氏からの祝辞



マーティン氏の報告の最後には、フィル・スペンス（Phil Spence）氏（英国図書館業務サービス部門部長・副館長代理）からの祝辞がビデオで上映されました。

- 1 通常のデータベースソフトウェア等では管理や蓄積、運用、分析が難しいような多量多様なデータ群。従来管理しきれないために見過ごされてきた膨大なデータを記録、保管、解析することで有用な知見が得られるという考え方がある。
- 2 国際インターネット保存コンソーシアム（International Internet Preservation Consortium）の略称で、各国の国立図書館等が国際的に連携してウェブアーカイブの技術開発等を行うための組織。
- 3 1PB（ペタバイト）= 1024TB（テラバイト）



英国図書館セント・パンクラス館（ロンドン） Image courtesy of British Library Board



第2部 パネルディスカッション

第2部では、異なる立場から図書館に関わりを持つ国内の有識者を迎え、パネルディスカッションを行いました。討論に先立ち、各パネリストから報告がありました。

○本を「ツナグ」こと

～荒木氏の報告～

荒木氏からは、研究資源の一つとして図書館サービスを利用している立場から次のような報告がありました。



荒木 浩氏

かつて西洋の図書館では、本は机に鎖で繋がれて持ち出せないようになっていました。本を「ツナグ」という言葉には、このように本を図書館に繋がりとめるといったイメージがあります。その一方、「ツナグ」という言葉は「つな（綱）」という

【パネリスト】

シヨン・マーティン 氏

荒木 浩 氏

(国際日本文化研究センター教授)

植村 八潮 氏

(専修大学文学部教授、出版デジタル機構取締役会長)

丸山 高弘 氏

(地域資料デジタル化研究会副理事長、山中湖情報創造館長)

【モデレーター】

柴田 昌樹

(関西館主任司書)

名詞から生まれた言葉で、派生的に「探り出す」「見つける」という意味、ひいては調査し、物事の真理を解明するという意味を担うようになったとの説があります。したがって本を「ツナグ」という言葉からは、鎖に「ツナグ」というネガティブなイメージと、調査するというポジティブなイメージの両方が連想され、二重の意味で図書館の本質を示す象徴的な言葉であると言えます。

電子図書館サービスには、本と本、本とメディアを「ツナグ」働きがあります。国立国会図書館デジタル化資料⁴では、夏目漱石の『三四郎』の初版本を読むことも、漱石がその中で絶賛している三代目柳家小さんの落語を聞くこともできます。また、かつては誰でも読めた「流布本」ほど後の時代になると消えてしまうものですが、現在は、原本での入手が困難になった流布本を電子図書館サービスで簡単に読むことができます。

電子図書館サービスにおいて、本と人を「ツナグ」には、詳細な検索をしなくても確実な情報が得られるポータル（入口）は重要であり、ポータルとしての国立国会図書館に期待しています。



左 夏目漱石著『三四郎』春陽堂 明治42（1909）年
<http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/886555> 1コマ目



右 三代目柳家小さん
 『柳家小さん落語集 蓄音文芸』三光堂本店、山口屋書店
 大正2（1913）年
<http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/916375> 6コマ目

冒頭で、かつての図書館では本が繋がっていたと話しましたが、電子書籍はアクセス権を継承できないため、本棚を残すことができません。「本棚」は本や図書館を語る際のキーワードですが、まだ今後の「本棚」のイメージが作られていないのではないのでしょうか。

○ 知の構造体の変容と出版・図書館の未来 ～植村氏の報告～

植村氏からは、出版等情報流通の視点からのご報告をいただきました。



植村 八潮氏

過去には、知と情報は長く紙と印刷により伝えられてきましたが、現在は膨大なデジタル情報が創出されるようになりました。また、かつての情報は提供責任者が明確でしたが、今では様々な人によって作られる「集合知」となり、匿名性の中で責任が曖昧に

なったため、新たな情報源に対する信頼性の担保が問題になっています。

これからは、書籍と電子書籍が同時に刊行され、流通のために分けられていた書籍、雑誌、新聞の区分はなくなり、今後デジタルアーカイブは民間事業になるでしょう。しかし、民間企業が所有するデジタルデータは、倒産等の危機で喪失する可能性があります。そこで、永続的な保存のために、図書館等が通常はデジタル情報を提供せずに保存し、データ喪失の危機が訪れたら提供を始める「ダークアーカイブ」の考え方が必要になります。そのためには電子納本制度の創設を考えていかなければなりません。これからは膨大な文字情報へのアクセスを保証することが図書館の役割となっていくでしょう。

○ 山中湖情報創造館の取り組み ～丸山氏の報告～

丸山氏からはインターネットを活用して図書館サービスを展開する公共図書館の運営者としての立場で、ご報告いただきました。



丸山 高弘氏

2004年に開館した山中湖情報創造館は、指定管理者制度を導入しており、経費削減とサービス向上という一見相反する目標の実現が求められています。e戦略はその解決法の1つです。山中湖情報創造館では、自動貸出返却機による貸出処

理、アクセスフリーの無線LAN、マルチメディアコーナー等、パソコンや周辺機器を使用できる環境の提供、新着図書の写真の掲示や山中湖の昔の写真のスライドショー等デジタルサイネージの活用等、さまざまな取り組みを行っています。

最近はさらに、デジタルファブリケーション⁵のサービスを導入し、情報を知る場であるだけでなく、何かを作り出し、伝えることのできる場にしていきたいと考えています。

引き続きマーティン氏を交えてディスカッションを行いました。主な発言を、大きく3つのテーマに分けてご紹介します。

○ 電子出版物に関する権利と制度

紙媒体からデジタル媒体に移ることにより、利用の仕方にも変化が生じます。例えば、荒木氏が述べたとおり、電子書籍のアクセス権は継承できないため、子孫に書籍を残すことができません。これに関連して丸山氏から、資料の収集が図書館法で定められた図書館の使命であるにもかかわらず、電子書籍を図書館が保存・提供することが認められていないことへの問題提起がありました。

これに対し植村氏は、図書館で電子書籍を提供できるように制度を変更し、かつ権利者を保護していくという議論をしていくべきであると述べ、また、デジタルコンテンツを広く利用するための枠組みの設計に当たっては、権利処理の集中化が必要であるとも述べました。

荒木氏は、かつて二次利用を阻むために画像の質を落としてデータベースを公開していた例があったことに触れ、まだ必要以上に権利者が用心深くになっている傾向があるのではないかとその意見を示しました。マーティン氏は、英国におけるウェブサイト収集の法制化の状況について、全体の中のごく一部である商業出版者のウェブサイトが制約となって、非商業的なウェブサイトの収集もなかなか進まない事例を紹介し、納本制度がデリケートな問題であることを指摘しました。

○ 外部資源の活用

所蔵資料のデジタル化やインターネット等での情報発信を進めるに当たっては、費用の問題を避けて通ることはできません。その解決法の1つとして、外部資源の活用が挙げられます。

例えば、国内外の図書館がGoogleと連携してデジタル化を進めています。これに関して植村氏は、一民間企業にのみ情報が蓄積されることの危険性に触れた上で、Googleブックスのようなサービスは有料化し、利用者に対しては特定の機関が無料でアクセスを保証すればよいのではないかと述べました。



山中湖情報創造館

また、無料で利用できる外部サービスを使って情報発信することも外部資源活用方法の1つです。山中湖情報創造館はYouTubeやFlickr等を積極的に活用しています。丸山氏は、これからの公共図書館が自らの活動を伝えていく上で、情報発信のチャンネルをたくさん持つことは有用ではないかと述べました。

○ e戦略がもたらす図書館の可能性

では、e戦略によって、図書館は利用者にとどのような場を提供できるようになるのでしょうか。

その一例として話題に上ったのは、「仕事をする場」としての図書館の在り方でした。荒木氏によれば、ヨーロッパでは図書館で仕事をする人が多く、英国図書館でも年間約5万人の利用者のうち、かなり多くの方が図書館で仕事をしているとのこと。日本では、図書館よりも家でインターネットを使う傾向があるが、図書館で管理された安全な環境でインターネットを使えるようにし、図書館を「仕事の間」として活用するようになれば、それは文化の変容と言えるのではないかとの発言がありました。これに関連して植村氏は、国による出版物の流通事情の違いについて言及し、日本では書店の数が多く情報を入手し易いため「仕事の間」として図書館よりも自宅が使われる傾向があるが、日本と比較してアメリカは書店が少なく、その代わりに図書館が人々の知る権利を保障していると述べました。また、それぞれの国の出版制度を評価し、電子出版物を既存の仕組みの中にいかに融合させていくかが問題であるとも述べました。

文献の流通状況は国・地域により異なり、研究

者が文献を入手することが難しい国・地域もあることから、荒木氏はe戦略を活用して問題の解決につなげることができないかと問題提起しました。

e戦略は、学習の場としての図書館の可能性も広げており、山中湖情報創造館では、山梨県の生涯学習推進センターのサテライトスクールとして、インターネット上で学習プログラムを利用できるようにしています。これまでは、利用者から求めない限り図書館側から積極的には学習プログラムを提供しない風潮があったが、少しずつ変化が現れているとの見解が丸山氏から示されました。

しかし、図書館が全てをカバーできるわけではありません。荒木氏は、図書館は利用者に対しどこまでサービスすべきか問いかけ、図書館、博物館、文庫館の役割分担のあり方が問題となると述べました。また、植村氏は、利用者のニーズという言葉を短絡的にとらえ過ぎているのではないかと指摘し、未来に向けて何を残すのかを考えていく必要があると問題提起しました。

討論終了後は質疑応答を行い、会場の参加者からはイングリッシュ・オンラインのコンテンツの選別方法等について質問が寄せられました。

最後にマーティン氏から、熱気や創造性、刺激が感じられた、と感想が述べられました。e戦略がもたらす図書館の未来が様々な見地から語られ、記念行事に相応しい有意義なシンポジウムになりました。

(関西館10周年記念行事担当)

4 <http://dlndl.go.jp/>

5 コンピュータと接続されたデジタル工作機械（レーザーカッターや3Dプリンタ等）を使い、木材やアクリル等の様々な素材を成形する技術。

日本の子どもの文学

国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み



国際子ども図書館では、2000年の開館以来様々な展示会を40回以上開催し、児童書の魅力を幅広く紹介してきました。

現在、本のミュージアムで開催している「日本の子どもの文学－国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」展（2011年2月開始）は、国際子ども図書館が所蔵している、日本国内で出版された児童書を用いて、明治期から20世紀末までの日本の子どもの文学の歴史を紹介しています¹。

展示では、日本の子どもの文学の歴史を概観するほか、「児童文学者コーナー」を設け、半年ごとに特定の作家や詩人を取り上げています。第1回は石井桃子（2011年2月～8月）、第2回は没後50年であった小川未明（2011年8月～2012年2月）、第3回谷川俊太郎（2012年2月～8月）、第4

回宮沢賢治（2012年8月～2013年2月）、現在は第5回として生誕100年の記念の年にあたる新美南吉（2013年2月～8月）の作品と業績を紹介しています。

展示の監修は、宮川健郎氏（武蔵野大学教授）です。

さらに、展示への理解を深めていただくために、展示内容に関連する講演会を開催しています。「日本の子どもの文学－昨日・今日・それから」（2011年5月）では、神宮輝夫氏（青山学院大学名誉教授）と宮川氏による、戦後の児童文学の歴史をテーマとした講演会と対談を実施しました。「谷川俊太郎さんに聞く－詩は絵本、絵本は詩－」（2012年2月）と「天沢退二郎さんに聞く－21世紀の宮沢賢治－」（2013年10月）では、「児童文学者コーナー」の展示にちなみ、それぞ



左上 本のミュージアム入口タペストリー 『ワンワンものがたり』
千葉県三著 川上四郎 絵 金蘭社 1929 (金蘭えほん叢書2)
左下 児童文学者コーナー 第3回 谷川俊太郎



右上 展示会場
右下 宮沢賢治と音楽をテーマに開催した「子どものための音楽会」
(共催：東京文化会館)

れ谷川俊太郎氏と、宮沢賢治研究で名高い天沢退二郎氏（明治学院大学名誉教授）を招き、講演と宮川氏との対談を行いました。

講演会は、作家や専門家のお話を通して、日本の児童文学への理解を深め、作家の人となりに触れながら、作品の背景を知る貴重な機会となりま

す。展示を楽しんでいただき、児童文学をより身近に感じていただけるように、これからも講演会やギャラリートークなどのイベントを企画し、実施してまいります。開催の詳細は国際子ども図書館のメールマガジンやホームページ²でも随時お知らせしますので、どうぞご来場ください。

(国際子ども図書館「日本の子どもの文学」展示班)

- 1 「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」の内容は、次の資料でご覧になれます。
 - 「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」『国立国会図書館月報』602 (2011年5月)号 pp11-17
 - 『日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み 国立国会図書館国際子ども図書館展示会』国立国会図書館国際子ども図書館 編・刊 2012.10 80p
- 2 国際子ども図書館ホームページ>展示会・イベント>展示会情報>開催中の展示会・これからの展示会
<http://www.kodomo.go.jp/event/exhibition/now.html>

★天沢退二郎さんに聞く

- 21世紀の
宮沢賢治 -

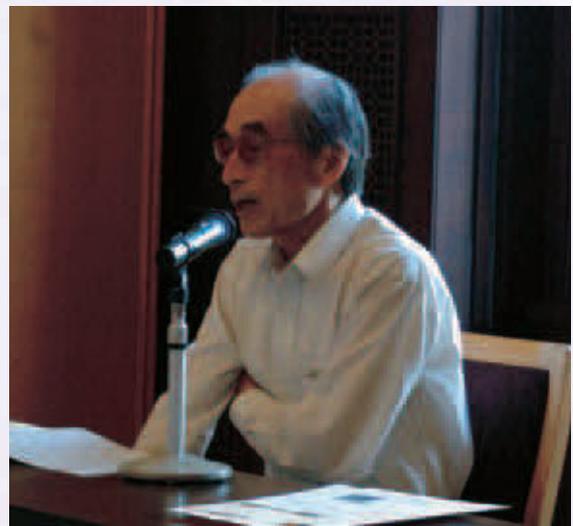
宮川 健郎



その天井は
途方もなく高かった。

2012年10月6日午後、天沢退二郎さんを国際
子ども図書館におむかえした。

3階の本のミュージアムで開催中の「日本の子ども
の文学」展は私の企画編集によるが、「児童
文学者コーナー」の4回めとして、宮沢賢治をあ
つかったことにちなんで、天沢さんに講演と対談
をお願いした。詩人であり、フランス文学者であ



天沢退二郎氏の講演の様子

る天沢さんは、『宮沢賢治の彼方へ』¹などの刺激的な賢治論の書き手でもあり、賢治の原稿に立ちもどって編纂された『校本宮澤賢治全集』²、『<新>校本宮澤賢治全集』³の仕事を中心になって引っぱってこられた方でもある。

国際子ども図書館は、宮沢賢治にゆかりの場所のひとつだ。国際子ども図書館は、戦争でも焼けのこった帝国図書館の施設を再利用しているけれども、賢治は、花巻から上京した折に帝国図書館にやってきている。東京の日本女子大学校で勉強していた妹のトシが病気になった、その看病のときや、1921年に突然家出をして出京し、しばらく東京で暮らしていた時期に帝国図書館に来ていたことが年譜で確認できる。現在の国際子ども図書館の本のミュージアムが当時の「普通閲覧室」にあたるから、賢治の小品「図書館幻想」の一文、「そこの天井は途方もなく高かった」の天井は、本のミュージアムの天井ではないか。その帝国図

書館＝国際子ども図書館に、天沢さんに来ていただいて、「天沢退二郎さんに聞く—21世紀の宮沢賢治—」という催しをした。

天沢さんの講演テーマは「可能性の宝庫としての「宮沢賢治」」。宮沢賢治が直感と想像力によって書いたことが科学によって裏付けられている21世紀という時間のなかで、賢治を読み直すことのおもしろさと意味を具体的に示してください。

1時間あまりの講演のあと、少しの休憩時間をとり、その後は、天沢さんと私の対談になった。これは、「賢治、光車、そして、オレンジ党」と題して、賢治のことが軸にはなるけれども、天沢さんの創作を初めとして、さまざまなお仕事についても、うかがおうと考えた。講演と対談の記録は、今後、国際子ども図書館のホームページに掲載されるが⁴、以下に、対談のところどころを紹介してみよう。



帝国図書館時代の普通閲覧室



国際子ども図書館「本のミュージアム」

ながい人生をたどりおえた実感

宮川 『現代詩文庫』版『天沢退二郎詩集』⁵の巻末に「自伝あるいは損をするための書き流し」という文章があって、満州での国民学校2年生の時に童話集『グスコブドリの伝記』を読んだ

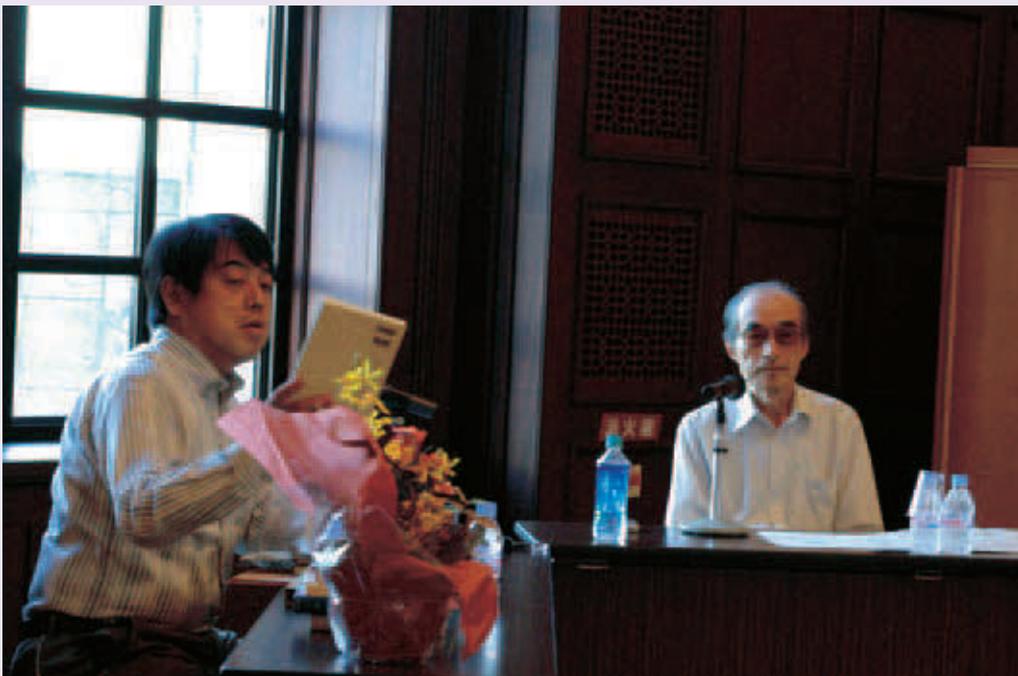
――

「八畳に腹ばいになって『グスコブドリ』を読み出し、一気に読みおえてふと気づくと、もう夕方、部屋の中もすっかりうす

ぐらくなっている。ながい人生をひとつたどりおえたという実感」

と書いていらっしゃるんですが……。

天沢 やはり、僕が満洲、いまの中国東北部で賢治を読んだということは、全然無関係ではないと思うわけですね。いまの僕が住んでいる千葉市ですけれども、賢治の文学世界は日本岩手県というわけですが、この岩手県というのは千葉に住む者にとってやっぱり東北の方にあるわけですね。それからさらに、僕は中学へ入ったところで、い



宮川 健郎 (みやかわ たけお)

1955年8月3日、東京生まれ。武蔵野大学教授。児童文学研究者。国際子ども図書館展示会「日本の子どもの文学」監修者。

『国語教育と現代児童文学のあいだ』、『宮沢賢治、めまいの練習帳』、『現代児童文学の語るもの』、『子どもの本のはるなつあきふゆ』、『名作童話 宮沢賢治20選』(編著)、『名作童話を読む 未明・賢治・南吉』(編著)など、著書多数。

天沢 退二郎 (あまざわ たいじろう)

1936年7月21日、東京生まれ。明治学院大学名誉教授。詩人。児童文学作家。宮沢賢治研究者。仏文学者。詩集に『道道』(第一詩集)、児童文学作品に『光車よ、まわれ!』、『三つの魔法』3部作、『オレンジ党最後の歌』、評論に『宮沢賢治の彼方へ』、『〈宮沢賢治〉鑑』、翻訳にアンリ・ボスコ『パスカレ少年の物語』3部作など多数。『校本宮澤賢治全集』、『〈新〉校本宮澤賢治全集』編纂。歷程賞、高見順賞、読売文学賞、日本翻訳出版文化賞、宮沢賢治賞など受賞多数。

ま住んでいる場所に引っ越してきたわけですが、千葉県は昔やっぱり一種の軍都だったわけで、うちの学校は兵器廠^{へいきしょう}だった。僕のうちの東北の方に、森や林や畑があるところやあるいは昔の軍の兵器庫的などところを歩きまわってというふうなことになるわけですが、このように、東北っという方角が、僕にとってある決定的な方角だったということが証明されたんです。

宮川 「ながい人生をひとつたどりおえたという実感」というふうに、『グスコブドリの伝記』(写真1)を読まれた、その読書体験がもとになって、それが千葉の自然を発見させる。そこはもう、「黒い魔法」「古い魔法」「時の魔法」がからみ合う、『オレンジ党と黒い釜』『魔の沼』『オレンジ党、海へ』の3部作(22頁 写真5)の世界に入っているわけですから。

パリの焼肉屋で

宮川 天沢さんは、以前、アンリ・ボスコいう南フランスの作家の『パスカレ少年の物語』シリーズを訳していらっしゃいます。

ちょっと思い出話になりますが、私が天沢さんと最初にお会いしたのは1982年2月です。ちょうど30年前のパリ、ボンヌーベルという下町ですね、そこに「竹園」という韓国料理とありますが、焼肉屋さんがありまして、そこで私が母と、それからもう1人知り合いと3人で食事をしているところに、日本人の男性ふたりが入っていらっしゃって、となりの席にすわった。それが天沢さんと映画評論家の山田宏一さんでした。天沢さんが1年間ソルボンヌで勉強なさっていたとき



写真1 宮澤賢治 著 横井弘三 装幀・挿絵 『グスコブドリの伝記 童話』 羽田書店 1941 <請求記号 児935-23> 国立国会図書館デジタル化資料 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1720627>

に、日本から山田さんがたずねてこられたんですね。やがて、天沢さんが「ゆうべ読み終えたばかりなんだけれども……」とおっしゃって、ワインを飲みながら、山田さんにアンリ・ボスコの作品のあらすじをずーっとお話になるんですね。1時間ぐらいかかってお話になるのを、私たちは、すぐわきで全部聞かせていただきました(笑)。私は、ただ深くおじぎをして失礼したのですけれども、そのときのお話が天沢さんが日本にもどって最初に訳された『犬のバルボッシュ』(20頁 写真2)ですね。「訳者おぼえがき」には、「たぐいまれなデリカシーで自然や風土と交感し、その息づきを表現しながら、ボスコのつむぎ出す物語世界はやはりそこにしかない幻想世界であるという点で、わが宮澤賢治のイーハトヴに似ている」(同 p346)とありますが……。

天沢 ボスコは、フランス、アヴィニョンの生



写真2 アンリ・ボスコ作 天沢退二郎訳
ジャン・パレイエ画 加藤光太郎装幀
『犬のバルボッシュ パスカレ少年の物語』
(福音館土曜日文庫) 福音館書店 1984
<請求記号 Y8-2068>

まれなのですが、アヴィニオンというのは周りを城壁に囲まれた昔からの有名な都会で、ここに法王庁があった時期もある。その繁華街の一角でアンリ・ボスコは生まれたんだけど、街から南へ2、3キロ離れたところで少年時代を送ったんですね。そして、お父さんお母さんは旅の音楽師なので、しょっちゅう旅暮らしです。少し大きくなると、アンリ少年は、もうひとりで野中の一軒家で暮らしていたんです。宮沢賢治の世界以上に自然に密着したところで、となりの家まで行くのに10分かかるといふような、そういうところでボスコは暮らしていたんだね。しかも、自分自身の少年時代をモデルにした小説ですから、これはフィクションなのですが、特に、少年がどこへ行ってほつき歩こうが何も干渉せずに遠くから見守っている魅力的な大伯母さんを設定することで物語全体が非常に無理なく進行していくわけです。

もうひとつ、ボスコと賢治を結びつけていえば、ボスコの旧居で、私がボスコの没後に知り合った、

ボスコの姪御さんのうちによく遊びに行くんですが、そこがルールマランという町なんです。そこはリュブロン山地という丘陵地帯なんですね。ボスコの小説にもたくさん出てくるわけですが、その丘陵地帯が石灰岩の産地であるということは、北上山地と同じなんです。北上山地は、宮沢賢治が非常に愛した。「風の又三郎」は、北上山地が舞台です。ね。

水たまりからはじまる

宮川 焼肉屋さんで天沢さんのとなりの席にいたとき、私は26歳でしたが、今年の春30年ぶりにパリを旅行したんです。天沢さんがいらっしやったソルボンヌ大学にうちのむすめが留学していて、家族でたずねていったんです。そのときパリは雨が降ったあとで、パリってすごく水はけが悪くて歩道なんかには水たまりがたくさんあるん



写真3 天沢退二郎著 司修装幀・さしえ『光車よ、まわれ!』
(ちくま少年文学館 4) 筑摩書房 1973
<請求記号 Y8-N11-J279>

ですね。それで急に『光車よ、まわれ!』(写真3)を連想しまして、パリには地下水道もあるはずだし、もしかして、そのパリの水たまりのイメージっていうのがあるのかしらと思いました。その後、日本で天沢さんにお目にかかったときに、そんな話をしましたら、「いや、それはちがうよ、石井桃子の『ノンちゃん雲に乗る』(写真4)だよ」とおっしゃった。『ノンちゃん雲に乗る』については、天沢さんが『石井桃子集』という、岩波書店から出ているセレクションの『ノンちゃん雲に乗る』がおさめられた1巻め⁶に解説を寄せられたんですが、そこには、その話は書いていらっやらないですよ。

天沢 『光車』を書いたあとで思えば、ということなんですけれども。『ノンちゃん雲に乗る』では、ノンちゃんが最初に、ひとりで高い木の枝にまたがっていて、下の水のところへ落っこっちゃうってところがあったからですが、そのときに世界がさかさまに映っているというイメージが非常に重要なところでもあります。そして、『光

車』では、最初のほうで、やっぱり、主人公が雨の水たまりがあちこちにあるところをよけるようにして、飛び跳ねてまたいだりなんかしているうちに、その水たまりの水に何か映っているということがあって、そこへ引きずり込まれるということは、これは、僕自身が『ノンちゃん』のことを思い出したからだというよりも、**僕の作品のほう**が僕の背中をつついて、「あ、『ノンちゃん』に会える」なんてことをいったのかもしれないんですよ。

宮川 『ノンちゃん雲に乗る』には、「池は、四五日の雨で水かさが増して、ノンちゃんのすぐ足もと近くまで、水が来てゐました。(中略)あゝ、なんて深い空でせう。もう一つの世界が、水のなかに、そして、ノンちゃんの足の下の土の向ふがはにあるやうです」(同 p23)というところがあります。天沢さんのほうには、「水たまりのひとつひとつに空がうつって、そのひとつひとつの空を、雲がぐんぐんかけぬけていく。いっしょうけんめい、その空や雲を見ながら歩いているうちに、



写真4 左：標題紙 右：見返し

石井桃子 著 桂ユキ子 装釘 『ノンちゃん雲に乗る』 大地書房 1947 <請求記号 VZ3-30046 (マイクロフィルム)> (プランゲ文庫整理番号：446-31 (読み物) 原資料所蔵機関：メリーランド大学)

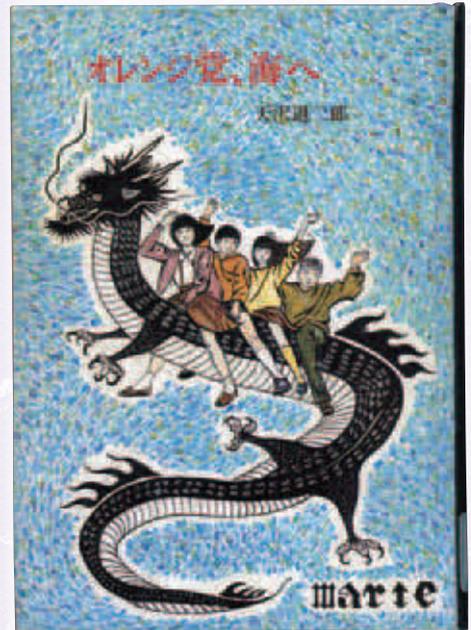
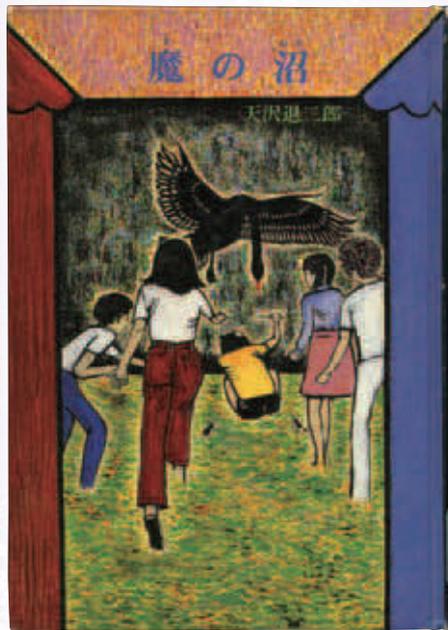


写真5 天沢退二郎著 林マリ(マリ林)装幀・さしえ 『三つの魔法』3部作

『オレンジ党と黒い釜』 筑摩書房 1978
 <請求記号 Y7-6797>

『魔の沼』 筑摩書房 1982
 <請求記号 Y7-9817>

『オレンジ党、海へ』 筑摩書房 1983
 <請求記号 Y8-1360>

どっちが上でどっちが下なのか、どの空が本ものの空なのかわからなくなってきた」(20頁 写真3 pp12-13) とある。世界が上下反転するということが物語の予兆になっているのかなと思ったり、浅い水たまりなのにそこで溺死してしまう事件が起きたりというようなことで、どんどん物語が深まっていきますね。

続編の出現

宮川 昨年の暮れには、前の『三つの魔法』3部作(写真5)の続編ともいえるような『オレンジ党最後の歌』(写真6)が刊行されました。『琉球新報』という新聞から私に依頼があって、書評のような紹介のようなものを書かせていただいたんですけど、まだ、私自身この『最後の歌』という作品をどんなふう読んでいいのかわからないという感じが非常に強いんですね。作中

に、九十九谷という非常に魅力的な場所を作られて、そこに史上最悪の魔物がいるという設定ですが、この4作目から、前の3作を見直すと、また、いままでとちがった、ある種の深さみたいなものを感じざるをえない。その深さをどうも読みこめていないという気がするんです。そこで作者に何かヒントをいただくというのは何か間違っているような気もするんですが……。

天沢 『オレンジ党』シリーズというのは、1983年の『オレンジ党、海へ』で一応最後の冒険というふうな感じで書き終えたかったんですが、身近な編集者や読者に強く続きをもとめられて。しかし、それから30年近くかかったわけです。ただ、続編のごとくで続編でないところがあって、つまり、続編は、それまでの3つの作品にかなり縛られるわけですね。『光車よ、まわれ!』を読んですごくおもしろがった小学生が「これは**つつつまが合わないところがおもしろい**」



写真6 天沢退二郎 著 マリ林装幀・さしえ
『オレンジ党 最後の歌』 復刊ドットコム 2011
<請求記号 Y8-N12-J121 >

といったことがあるんですね。もう1回『オレンジ党、海へ』を読み直してそれと一生懸命つじつま合わせをするとその子に怒られますから、つまりそういうことをしないで……。

オレンジ党の仲間、名和ゆきえという女の子がいて、この女の子はそれまでの3部作では途中でいなくなっちゃうんですね。父と子の2人だけの暮らしなんですけど、お父さんがどこか遠いところに仕事しに行くのでどこかの児童養護施設に預けられることになる。それでも、オレンジ党が恋しくて、いったん逃げてくるが、また連れ帰されるということがあった。そこで、その子が、またもどってくるという設定にして、しかもその女の子の側から書くということを思いついたんですね。『オレンジ党、海へ』で、オレンジ党の他の男の子、女の子は、みんな実は「ときの海」というところに行って、そこで死んだお父さんお母さんに会ってくるというすごい冒険をしてきたんで

す。そのときに、ゆきえだけはそれに参加できなかったんですね。ということで、新しい物語を名和ゆきえのほうから見た話ということにしたわけですね。だから、これはもう、つじつまが合わないことをおそれることは、まったくなくなったので。

宮川 私たちは、その『オレンジ党 最後の歌』を去年の大震災や原発の事故のあとに受けとることになりました。それで、九十九谷の史上最悪の魔物というのは文明の近代が作り出した猛毒だということも書かれていて、読者としては非常に重い問題をいただいたような気がしております。

賢治作品のアウト

宮川 私のほうから、「日本の子どもの文学」展をやっていることにかかわって、もうひとつかがいたいんですが……。

先ほどの講演のなかで、童話作家の平塚武二が



写真7 左：本文1頁 右：表紙
宮沢賢治 著 中尾彰 絵 『どんぐりと山猫』 (ともだち文庫 1)
中央公論社 1949 <請求記号 児93-M-3 >
国立国会図書館デジタル化資料 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1168276>

『白象』という雑誌に書いた「児童文学の前後」⁷の話がありました。これは、児童文学の戦前戦後の意味で、賢治の童話をとんでもなく、すごいものだといっている。「児童文学少年」であった天沢さんが『白象』を読まれたあと、1950年代になって、日本の子どもの文学が転換をはじめた。宮沢賢治や小川未明など詩的で象徴的なことばで心象風景を描くような「近代童話」が、もっと散文的なことばで子どもをめぐる状況を描くような「現代児童文学」に転換したという見方で展示会は作っているんですけども、ほんとうに「童話」から「児童文学」へ転換したのか。「童話」は、もう過去のものなのか。このことについて、実は、私自身、非常に疑いをもっているんですね。

天沢 たとえば、宮沢賢治の童話、その最大の魅力の根本は、やっぱり、エクリチュール、文なんですね。文のことばの順序とか、たとえば、あの「どんぐりと山猫」の第1行のことばの並べ方、「をかしなはがきが、ある土曜日の夕がた、一郎のうちにきました」(23頁 写真7 p1)という並べ方ですが、この「をかしなはがきが、」と

いうところですね、それから、「ある土曜日の夕がた、一郎のうちにきました」という、この順序というのは、簡単なようで、ふつうのことばの順序じゃないですね。賢治テキストには、文章の力がある。これは物語の力なんですけども、その後、いろんな作家が出て来たんですけども、アウラ(宮川注:独特の雰囲気、オーラ)が足りないというかね。それはもしかして今の、主にパソコンで書くという書法が十分に進化していないということと関係あるのかもしれない。そこで、宮沢賢治の書法の可能性を再考する必要があるような……。そういうことしか、いまのところはいえないです。

宮川 わかりました。日本児童文学史の構図も、きょうの講演でおっしゃった21世紀の時間のなかで、作品のアウラを感じながら考えていきたいと思います。ありがとうございました。

対談のあと、参加者からの質問がつづき、予定時間を超過して終了した。宮沢賢治と天沢退二朗さんとともにすごした、秋の土曜日の午後だった。

(みやかわ たけお)



- 1 天沢退二朗 著『宮沢賢治の彼方へ』思潮社 1968
〈請求記号 910.28-M674Am〉
国立国会図書館デジタル化資料(館内限定閲覧)
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1348607>
- 2 『校本宮沢賢治全集』1-14巻(全15冊) 筑摩書房 1973-1977
〈請求記号 KH361-2〉
- 3 『(新)校本宮沢賢治全集』1-16巻 別巻1-2(全20冊)
筑摩書房 1995-2009 〈請求記号 KH361-H15、J9、J10〉
- 4 国際子ども図書館ホームページ>展示会・イベント>イベント情報>過去のイベント>講演会「天沢退二朗さんに聞くー21世紀の宮沢賢治ー」
<http://www.kodomo.go.jp/event/event/event2012-10.html>
- 5 『天沢退二朗詩集』(現代詩文庫11) 思潮社 1968
〈当館所蔵なし〉
- 6 石井桃子 著『石井桃子集』1巻 岩波書店 1998
〈請求記号 KH196-G152〉
- 7 平塚武二「児童文学の前後」『白象』 白象社 第1冊(1949.11)
pp129-137 〈請求記号 Z13-2506〉

郷土の歴史を残す

復興支援活動としての吉田家文書本格修復



国立国会図書館東京本館に到着直後の吉田家文書（一部）

国立国会図書館は、国内の図書館を支援するためのさまざまな活動を行っています。ここでは、東日本大震災復興支援活動の一環である、岩手県指定有形文化財「吉田家文書」の修復についてご紹介します。

1 吉田家文書とは

吉田家文書は、仙台藩気仙郡で郡内を統括する役職「大肝入」(大肝煎とも書く)をおおきもりを代々務めた吉田家に引き継がれてきた文書類です。気仙郡は24の村からなる区域で、現在の岩手県陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市唐丹町に当たります。

大肝入は、郡や村の住民から選ばれる地方役人の最高位です。主な任務は郡内を統括し、租税の取りまとめを行うことで、諸経費の配分、軽犯罪の取り調べなどを行う権限もありました。大肝入には役料が支給され、苗字帯刀、絹紬着用を許され、年貢や諸役を免除されました。

吉田家の初代宇右衛門は、元和6(1620)年に領主伊達政宗によって気仙郡大肝入に任命されました。以後吉田家は、一時期を除き¹明治2(1869)年まで十代にわたってその任務を務めました(写真1)。

吉田家文書の中心は「定留」²という執務日誌で、寛延3(1750)年から明治元(1868)年までの118年分がほぼ残されています³。大肝入が行った藩との連絡調整、天明の飢饉をはじめとする災厄への対策などが記録され、前例をすぐ調べることができるよう「頭書」という索引も付されています。地域の歴史と生活を知るための手がかりが蓄積されており、このような記録がまとまって残ることは全国でも稀であるといわれます。地元の陸前高田市では、陸前高田古文書研究会が20年



写真1 被災する前の吉田家住宅(岩手県立博物館提供)

以上をかけて文書の解読を進めています。定留のほか、吉田家文書には、気仙郡村絵図、伊達政宗黒印状(東日本大震災で流失)も含まれています。

吉田家文書は平成元年に陸前高田市立図書館へ寄託され、平成7年に岩手県の有形文化財に指定されました。県指定有形文化財のうち、古文書類としては、吉田家文書のほかに、豊臣秀吉朱印状(南部信直宛)、盛岡藩雑書も指定されています。盛岡藩雑書は盛岡藩の家老席の執務記録であり、支配者側の記録といえるのに対し、吉田家文は庶民の近くで成立した記録といえます。

2 吉田家文書の被災

吉田家文書は、陸前高田市立図書館の貴重本庫で大切に保管されていました。

平成23年3月11日の東日本大震災で陸前高田市立図書館は全壊し、2階にあった貴重本庫も天井ま

で海水に浸かってしまいましたが、貴重本庫の壁と鉄の扉、さらに木箱に入って守られていた吉田家文書の多くは、流出を免れました。陸前高田市職員や陸前高田古文書研究会の方々が図書館から資料を拾い集め続け、震災から1か月後の4月、自衛隊によってすべての文書が救出されました。しかし、同館に保管されていた陸前高田古文書研究会による解説文は、ほとんどが流されてしまいました。

救出された吉田家文書は、岩手県内の文化財救援作業の拠点である岩手県立博物館に運ばれました。気温や湿度が上がり始める季節に当たり、カビの発生を抑えるために、まず砂や泥を落とす応急処置的な作業が行われ、次に、脱塩・除菌のための洗浄、乾燥など、劣化の進行を抑えるための作業が行われました。岩手県立博物館職員をはじめ、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員、岩手大学、盛岡大学の学生ボランティア、総勢170名余りの方々が作業に携わりました。

これらの処理後、文化庁の東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業(文化財レスキュー事業)として文書の状態調査が行われ、国立国会図書館の職員が調査に参加したところ⁴、文書にカビの発生や和紙の腐食等による損傷が多数あることがわかりました。その後、岩手県教育委員会から定留の修復について当館へ依頼があり、これを受けて本格修復を行うこととなりました。

- 1 明暦2(1656)年から延宝3(1675)年は矢作久右衛門、元禄7(1694)年から宝永2(1705)年は松坂十兵衛が任命されている。
- 2 「御用永留」、「永留」と題されたものもある。
- 3 寛政11(1799)年、文化12(1815)年、文政元(1818)年、天保元(1830)年の4年分を欠く。
- 4 文化財レスキュー事業は、東日本大震災で被災した文化財等を緊急に保全し、がれき撤去等による文化財の廃棄・散逸を防止することを目的として文化庁が実施したもの。国立国会図書館は平成23年5月に文化庁から依頼を受け、構成団体となった。詳細は、本誌615/616(2012年6/7月)号 pp.4-10「被災資料を救う 国立国会図書館の1年間の取組みを振り返る」参照。

陸前高田古文書研究会

陸前高田古文書研究会は吉田家文書の解説を20年来進めてこられ、震災当時、解説作業は定留95冊のうち2冊を残すまでとなっていました。

吉田家文書は震災によって被災する前に、マイクロフィルムによる撮影と、デジタルカメラによる撮影が行われていました。デジタル画像を記録したCDは、震災時に海水をかぶってしまいましたが、NPO法人・地域資料デジタル化研究会によって復元されました。岩手県立図書館からマイクロフィルムのコピーが、図書館振興財団から復元された画像データとその写真帳が陸前高田古文書研究会に寄贈され、再び解説作業が進められています。

これらの過程と吉田家文書の救出作業については、陸前高田古文書研究会によってまとめられ、出版されています。

(参考文献)

『文化財を救え 郷土の歴史を後世に伝えるために』
陸前高田古文書研究会 2012.11

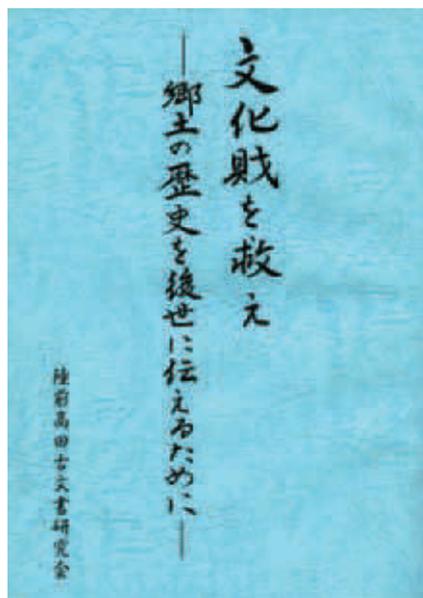




写真2 文書が東京本館へ到着し、荷ほどこしているところ



写真3 洗浄中の文書

3 修復作業

平成24年10月、岩手県立博物館から国立国会図書館東京本館まで、吉田家文書の半数が搬送されました(写真2)。

修復作業では、文書を長期的に保存でき、さらに学術資料として活用できる状態にすることを目指しています。作業の大まかな内容は、紙を洗い、損傷部分を修復するというものです。文書の到着直後は、どうすれば作業を効率よく進められるか、試行錯誤していました。だんだん軌道に乗ってくると、いろいろな資材が足りなくなり、急いで補充したこともありました。

洗う作業では、綴じをはずした丁(ページ)を広げて底の平らなザルではさみ、最初はぬるま湯、次に水に浸して振り洗いをしています(写真3)。洗う前の文書は何ともいえないにおいを放っ

ていますが、洗うとかなり弱まります。

文書の損傷部分を修復する作業では、新たに導入した漉きばめ機を使用しています。手漉き和紙の製法を応用した機械で、穴のあいた紙を台に置き、紙の繊維と水を混ぜたものを流すと同時に、台の下から水を吸い取ります。すると、欠損部分だけに繊維が残り、穴が埋まります(写真4)。

このようにして1丁ずつ修復し、乾かす作業を続けています。損傷がひどい場合は、丁同士が貼りついており、開くことさえ難しく、慎重な取り扱いが必要です。

最後の綴じ直し作業は、すべての丁の修復が終了した後、岩手県立博物館との相談の上、内容を確認しながら行う予定です。綴じを待つだけとなった作業後の文書は、当館の書庫で保管しています(写真5、6)。

写真4 漉きばめ機による修復の流れ

- 4-1 漉きばめ機
- 4-2 修復前（丁の裏側）
- 4-3 繊維を流し込んだ直後（丁の裏側）
- 4-4 乾燥後、穴が埋まったところ（丁の表側）



4-1



4-2

4-3



4-4





写真5 修復後の文書（安永4-6年分）



写真6 修復後、綴じ直しを待つ文書

国立国会図書館における吉田家文書の修復は、今後1年以上続く予定です。館外の資料をお預かりしての修復は気の張る作業ですが、文書を救出

した岩手の方々からつながれているバトンと思い、根気強く取り組んでいきます。

（収集書誌部資料保存課）

Facebook「国立国会図書館吉田家文書修復」

<http://www.facebook.com/yoshidakeshufuku>



吉田家文書の修復作業について、ソーシャルネットワーキングサービスFacebookを通じてお知らせしています。ぜひご覧ください。



少数精鋭「R本」

国立国会図書館では、ほとんどすべての資料は、利用者が立ち入ることができない書庫の中に納められています。東京本館にある「人文総合情報室」では約22,000冊の資料を開架し、利用者は自由に手にとって閲覧することができます。開架資料は、調べ物に利用する辞書・事典などの参考図書です。職員はこれら開架の参考図書のことを「R本（あーるほん）」と呼んでいます（語源は「Reference Book」のようです）。

さて、この「R本」は一体どのように選ばれているのでしょうか。

当館では、整理・装備などの受け入れ作業が終わった新しい図書は、書庫の決められた場所に納められる前に、まずは「選書コーナー」に並べられます。「選書」と言えば、一般的には「図書館に所蔵する資料を選ぶこと」を意味すると思いますが、当館では「蔵書の中から開架するR本を選ぶこと」も「選書」と呼んでいます。このコーナーには、日によって変わりますが、数百冊の新規に受け入れた図書が並べられ、毎日だいたい30分ほどの時間をかけて、この中からR本を選びます。

人文総合情報室で担当する人文科学・総記分野の図書は特に重点的に確認します。まずは背表紙に鋭く目を走らせ、そしてR本になりそうな図書は実際に手に取って、序文・本文・奥付



書庫内の一角にある「選書コーナー」

にざっと目を通し、すでにあるものの新版か、それとも新たに編集されたものかを確認します。判断のポイントは、参考図書としての内容の充実度や信頼性はもちろん、索引などの使い勝手、類書の有無などから総合的に判断します。内容が簡便なものや、ジャンルが狭い資料など、R本にしても利用される可能性の低い資料は選択を見送ります。

R本として選んだ資料に目印をしておくと、他の図書とは区別され、後ほど人文総合情報室へ送られてきて、R本としてデビューします。開架スペースには限りがあるため、新入りのR本が増えるたびに、古株のR本を選んで泣く泣く書庫に戻す毎日ですが、充実したレファレンスコレクションを構築するため、日々せっせと選書コーナーに通っています。

(人文課人文第一係 人文R)

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。ここでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

ブレイキングニュース

AP通信社報道の歴史

AP通信社の記者たちは戦争、平和、世界のニュースをいかに取材し報道してきたか

AP通信社 編 我孫子和夫 訳 新聞通信調査会 刊
2011.6 431頁 27cm <請求記号 UC85-J3>

「記者の仕事」についてどれだけ知っていますか？と聞かれて、取材と記事作成ぐらいはイメージだけでも、具体的な活動が思い浮かぶ人は多くないのではないのでしょうか。本書は米国最大の通信社であるAP通信社（Associated Press、以下「AP」）で、記者たちが取材し報道してきた、多くの事例をまとめたものです。

APは1846年、ニューヨークの5新聞社が、メキシコ戦争のニュースを郵便よりも早く入手するために、電信によるニュース収集に合意したことから生まれました。

その後、APは大きく成長し、印刷報道等に与えられる、米国で最も権威ある賞、ピューリッター賞を50回も受賞するまでになります。その活動ぶりは、ニュースの現場に誰よりも早く到着し、誰よりも遅く引き揚げることから「ジャーナリズムの海兵隊」とも呼ばれています。

本書に収録されているエピソードをいくつか紹介しましょう。終戦直後の1945年9月、占領軍による東条英機元大将逮捕の現場にはAP記者が同行していました。その記者は、前日に東条に独占インタビューを行っており、東条の居場所を把握していなかった占領軍のために道案内を買って出たのです。記者は、自決未遂直後の現場で、負傷して横たわる

東条の生々しい写真を撮影しています。

2001年9月に米国を襲った同時多発テロの報道の様子についてもページが割かれてい



標題紙

あるロックフェラー・センターでも、避難指示が出たにも関わらず、記者・編集者は退避しませんでした。その様子は、「エディターたちが大量殺戮の報道について次々と至急信を送る中、ニュース編集室は驚くほど落ち着いて静かだった」と描写されています。米国職業ジャーナリスト協会は、APの速報を「憶測に捉われることなく、何が起きたか確認する報道に徹した」と称賛しました。

このように世界有数の通信社として活躍してきたAPですが、インターネットでのニュース配信の増加に伴い変化を迫られています。加盟社からの収入は減少傾向にあり、デジタル分野での収入を増やすべく試行錯誤しているようです。しかし、ビジネスモデルは変わっても、「APの面々は「自由」を形成する一部である。彼らは常に徹底的かつ正確に、また時に危険を冒しつつ、誠実な匿名のメッセンジャーとしてニュースを発信する」と述べた元会長フランク・バッテンの言葉は、変わらぬ理念としてホームページに掲げられています。

(調査及び立法考査局議会官庁資料課 田中 誠)

※1部5,500円で入手可能(送料別)。詳細は新聞通信調査会ホームページ(<http://www.chosakai.gr.jp/publication/index.html>)参照。

国際政策セミナー**「2012年アメリカ大統領
選後の日米関係の展望」**

2月15日、東京本館で標記セミナーを開催し、約200名の参加があった。このセミナーは、調査及び立法考査局が行っている総合調査プロジェクト「日米関係をめぐる動向と展望」の一環として、新進気鋭の国際政治学者であるアンドリュー・オロス氏（ワシントン・カレッジ准教授）を招へいして行ったものである。

オロス氏は「日米関係緊密化の重要性—重層的な移行が進む時代において—」と題する基調講演で、中国の台頭などアジア太平洋地域における戦略環境が変化する中で、日米関係が持つ意義と可能性について論じた。

引き続き、河野勝氏（早稲田大学政治経済学術院教授、国立国会図書館客員調査員）をコーディネーターとし、中山俊宏氏（青山学院大学国際政治経済学部教授）、西崎文子氏（東京大学大学院総合文化研究科教授）、鎌田文彦（専門調査員、調査及び立法考査局外交防衛調査室主任）を交えたパネルディスカッションが行われた。会場からは、集団的自衛権、尖閣諸島問題、TPP、エネルギー安全保障や日米間の人的交流の促進など多数の質問があった。

国際政策セミナーの記録は、平成25年度に刊行する予定である。



お知らせ

■ デジタル化資料の追加公開について

2月21日に、これまで館内限定で公開してきたデジタル化した図書資料のうち、著作権処理の終了した約2万3千点を新たにインターネット公開しました。今回インターネット公開された図書には、今年1月に著作権保護期間の満了した柳田國男、吉川英治、室生犀星等の著作が含まれています。これらは「近代デジタルライブラリー」および「国立国会図書館デジタル化資料」で検索・閲覧できます。

また、3月7日に、「国立国会図書館デジタル化資料」に「日本占領関係資料」を追加しました。日本占領関係資料には、米国戦略爆撃調査団（USSBS）文書約1万7千点と極東軍文書約700点が含まれています。USSBS文書はインターネット公開です。極東軍文書は国立国会図書館の施設内でのご利用になります。

そのほか、3月21日までに雑誌約2万6千点、プランゲ文庫一般図書約3,400点が国立国会図書館の施設内で利用いただけるようになりました。現在、デジタル化した資料の提供総数は、約225万点、そのうち、インターネットで提供するものは約47万点です。

○提供URL

「近代デジタルライブラリー」 <http://kindai.ndl.go.jp>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>電子図書館>近代デジタルライブラリー

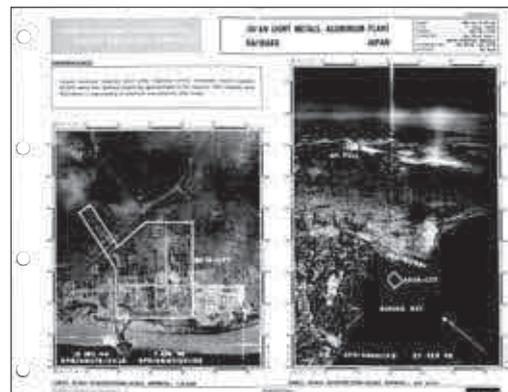
「国立国会図書館デジタル化資料」 <http://dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>電子図書館>デジタル化資料



「遊戯菩薩」吉川英治著
新英社 昭和10年



Targets in Tokyo and Shizuoka areas. : Report No. 1-a(5),
USSBS Index Section 7

お知らせ

■ 平成25年度 国立国会図書館 職員採用試験

平成25年度の職員採用試験を次のとおり実施します。

- 職務内容 調査業務・司書業務・一般事務等の館務
総合職試験：政策の企画立案に係る高い能力を有するかどうかを重視して行う職員の採用試験
一般職試験（大卒程度試験）：的確な事務処理に係る能力を有するかどうかを重視して行う職員の採用試験
- 勤務地 東京都（東京本館・国際子ども図書館）・京都府（関西館）
（転勤があります）
- 試験の概要（詳細は試験案内またはホームページで必ずご確認ください）

種類	大学卒業程度	
	総合職試験	一般職試験（大卒程度試験）
受験資格の概要*	昭和59年4月2日～平成5年4月1日生まれ （平成5年4月2日以降生まれでも、大学卒業または卒業見込みであれば可）	昭和59年4月2日～平成5年4月1日生まれ （平成5年4月2日以降生まれでも、大学・短大・高専卒業または卒業見込みであれば可）
受付期間	平成25年4月1日（月）～4月18日（木）（消印有効）	
1次試験	平成25年5月12日（日）	
会場	1次試験は東京および京都で行います。2次試験以降は東京のみです。	

*日本の国籍をお持ちでない方、国会職員法第2条の規定により国会職員となることができない方は受験できません。

- 受験申込書および試験案内の入手方法
東京本館および関西館で配布します。
郵便で請求される際は、封筒の表に「総合職試験・一般職試験（大卒程度試験）請求」と朱書き、返信用封筒（角型2号）を同封してください。返信用封筒にはあて先を明記し、切手（140円）を貼ってください（総合職試験と一般職試験（大卒程度試験）は共通の書式です）。
- お問い合わせ・資料請求先
国立国会図書館 総務部 人事課 任用係
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1 電話 03(3506)3315(直通)
URL <http://www.ndl.go.jp/jp/employ/index.html>
国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 採用情報



お知らせ

■ 平成25年度 図書館情報学実習生を 募集します

大学（短大・大学院を含む）で、図書館での実習を含む科目を履修する学生を対象に、実習生を募集します。

○応募資格

- ・大学（短大・大学院を含む）に在籍する学生のうち、図書館における実習を含む科目を履修する方。
- ・大学（短大・大学院を含む）の長から推薦を受けた方。
- ・実習日までに、実習期間中に発生した事故等に関する保険に加入できる方。

○応募方法

大学等の図書館情報学課程・司書課程等担当教員が学校単位でとりまとめ、お申し込みください。実習希望者本人からの申込みは受け付けていません。

○募集期間

3月4日（月）～4月23日（火）

○実習期間

東京本館 8月19日（月）～30日（金）の土・日曜日を除く10日間

関西館 9月 5日（木）～12日（木）の土・日曜日を除く6日間

国際子ども図書館 9月 3日（火）～12日（木）の日曜日を除く9日間

○お問い合わせ・お申し込み先

東京本館、関西館で行う実習

国立国会図書館 関西館 図書館協力課 研修交流係

〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3 電話 0774(98)1444(直通)

国際子ども図書館で行う実習

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課 協力係

〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49 電話 03(3827)2053(代表)

※必ず国立国会図書館ホームページにて詳細をご確認ください。

URL http://www.ndl.go.jp/jp/news/news_index.html

国立国会図書館ホームページ(<http://www.ndl.go.jp/>)>ニュース(2013年3月4日)

お知らせ

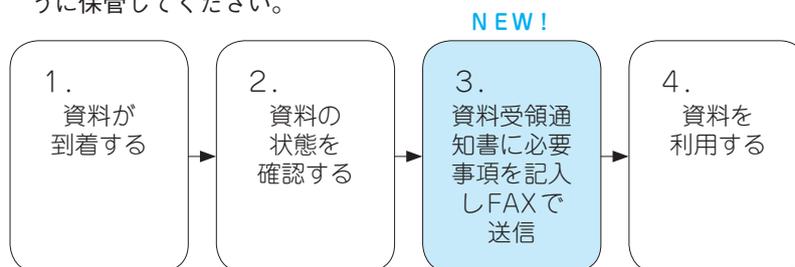
■ 4月1日から

図書館間貸出資料の受領 通知が必要になります

4月1日から図書館間貸出しの手続きを変更します。

図書館間貸出制度加入館が、当館から送付された図書館間貸出資料を受け取った際には、次の要領で当館あてに、資料を受け取った旨を通知してください。

- 当館が資料を貸し出す際は、「貸出資料についてのお知らせ」を添付します。
この「貸出資料についてのお知らせ」の右半分が「資料受領通知書」です。
- 資料が到着したら、資料の状態を確認の上、「資料受領通知書」に必要な事項を記入して、資料受領後3日以内に発送元へFAXで送信してください。発送元は、国立国会図書館関西館、国立国会図書館東京本館、国際子ども図書館のいずれかになります。
- 「貸出資料についてのお知らせ」と「資料受領通知書」は、資料返送の際にも添付していただきますので、資料を利用している間紛失しないように保管してください。



(参考)

国立国会図書館資料利用規則第48条第5項

図書館等が書留郵便等により前項の資料を受領したときは、その旨を館に通知しなければならない。

国立国会図書館国際子ども図書館資料利用規則第29条第5項

図書館等が書留郵便等により前項の資料を受領したときは、その旨を国際子ども図書館に通知しなければならない。

○お問い合わせ先

国立国会図書館 関西館 文献提供課 複写貸出係

(電話) 0774 (98) 1313 (直通)



お知らせ

■ 国際子ども図書館講演会 「私が子ども時代に出会った 本——落合恵子」

国際子ども図書館では、4月23日の「子ども読書の日」にちなんで、社団法人日本ペンクラブとの共催で講演会を開催します。

子どもの頃に読んで感動した本は、いつまでも心に残るものです。

元文化放送アナウンサーであり、作家、絵本と玩具の専門店クレヨンハウス主宰として多方面で活動されている落合恵子氏をお招きし、「この時代を生きる子どもと本と」と題して、落合氏が子ども時代に出会った本についてお話しいただきます。

落合氏のお話から自分自身や子どもたちの読書体験について考え、子どもの読書活動についての関心と理解を深める機会として、ぜひご来場ください。入場は無料です。

- 日 時 4月21日（日）14:00～
- 会 場 国際子ども図書館ホール（3階）
- 講 師 落合恵子氏（作家、クレヨンハウス主宰）
- 対 象 中学生以上（定員100名）
- お申込方法

次のいずれかの方法で、参加者1名につき1通に①氏名（ふりがな）、②年齢、③郵便番号、④住所、⑤電話番号をご記入の上、4月5日（金）までにお申し込みください。申込多数の場合は抽選となります。

[往復はがき] 〒110-0007 台東区上野公園12-49

国際子ども図書館「4月21日講演会」係

（返信用はがきに返信先の郵便番号、住所、氏名をお書きください）

[電子メール] koen0421@kodomo.go.jp

（タイトル・件名欄に「4月21日講演会申込み」とお書きください）

- お問い合わせ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課

電話 03 (3827) 2053 (代表)

お知らせ

■ 本の万華鏡（第12回） 「紙の上の旅・人・風俗 —江戸の双六—」



私たちにもなじみ深い絵双六は、主に江戸時代、庶民の娯楽として普及しました。はじめはサイコロの目に沿って順番にコマを進める「廻り双六」という形式しかありませんでしたが、やがて「一回休み」のマスが作られたり、サイコロの目に応じて離れたマスに移動する「飛び双六」が生まれたり、種類も豊富になり、より娯楽性の高いものへと発展していきました。双六は子どもの遊びという印象がありますが、子どもには難しい内容を含むものもあり、年長者と子どもと一緒に遊んだものと考えられます。また、色鮮やかな絵双六の多くは、当時の人気絵師らによって描かれ、その美しさから、遊ぶだけでなく観賞の対象ともなっていました。

2月27日から提供を開始したミニ電子展示「本の万華鏡」第12回では、当館で所蔵している江戸時代の絵双六の中から、旅・人・風俗を描いた双六を取り上げます。内容は、双六に見立てて「振り出し」に始まり、「上がり」に至るまでの5章で構成し、一マス目では旅行を主題とした道中双六や名所双六を、二マス目では歌舞伎役者や、世間に広く知られていた有名人、歴史上や文学作品中の人物など、様々な人物が描かれた双六を、三マス目では町人の出世の夢を描いた出世双六や、江戸の名物や商品、人気店を紹介した双六、また妖怪や言葉遊びなど一風変わった題材の変わり種の双六をご紹介します。

○URL <http://rnavi.ndl.go.jp/kaleido/>



参宮上京道中一覽雙六
広重 画 蔦屋吉藏 安政4 (1857)
〔「双六」<請求記号 本別9-27> [デジタル化資料]〕
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1310712/1>



戀女房染分手綱
香蝶樓豊國 画 住吉屋政五郎 弘化～嘉永頃刊
〔「古代江戸繪集」<請求記号 ㊟-88> [デジタル化資料]〕
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2542560/174>

お知らせ

■ 「国立国会図書館 東日本大震災アーカイブ (ひなぎく)」の 本格サービス開始

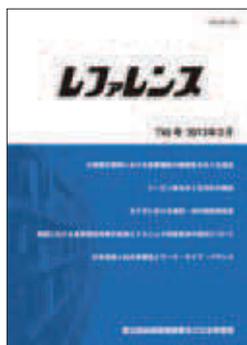
3月7日(木)に、東日本大震災に関するデジタルデータや、関連する文献情報を一元的に検索・活用できるポータルサイト「東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)」を公開しました。東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ伝え、被災地の復旧・復興事業、今後の防災・減災対策に役立つ音声・動画、写真、ウェブ情報等を包括的に検索することができます。関係機関と連携、協力しながら、国全体として震災の記録を収集・保存・公開することを目指し、愛称を「ひなぎく」(HINAGIKU: Hybrid Infrastructure for National Archive of the Great East Japan Earthquake and Innovative Knowledge Utilization)と名付けました。キーワードによる検索に加え、場所や年月日による検索も可能となり、それらの検索結果を地図上・時系列上に表示する機能があります。

○URL <http://kn.ndl.go.jp>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>)

>国立国会図書館東日本大震災アーカイブ

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 745号 A4 123頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・大規模災害時における首都機能の継続性をめぐる視点
- ・トービン税をめぐる内外の動向
- ・カナダにおける連邦・州の税財政改革
- ・韓国における農業構造政策の転換とトルニョク別経営体の現状について
- ・科学技術人材の多様性とワーク・ライフ・バランス

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03(3523)0812

CONTENTS

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Tokini min'na minobu no goriyaku
A draft ranking list of kabuki actors posted on a street corner
- 04 Marking the 10th Anniversary of the Kansai-kan (3)
- 05 International Symposium at the Kansai-kan commemorating the 10th anniversary
“Library Service and e-Strategy”
- 14 Japanese children's literature
A History from the International Library of Children's Literature collections
- 16 Asking Mr. Taijiro Amazawa: Kenji Miyazawa in the 21st century
- 25 Handing down the local history
Full conservation treatment for local documents affected by the Great East Japan Earthquake,
as one of the reconstruction activities of the NDL
- 31 <Tidbits of information on NDL>
Keep best reference books on open shelves in the Humanities Room
- 32 <Books not commercially available>
○ *Burēkingu nyūsu : AP tsūshinsha hōdō no rekishi : AP tsūshinsha no kishatachi wa sensō, heiwa, sekai no nyūsu o ikani shuzaishi hōdōshitekita*
- 33 <NDL News>
○ International Policy Seminar “Visions of the Japan-US relationship after the US presidential election 2012 in the changing strategic circumstances of the Asia-Pacific region”
- 34 <Announcements>
○ New digitized materials available inside the NDL and on the Internet
○ Announcement of the employment examinations for FY2013
○ NDL accepts applications for internship on library and information science FY2013
○ Notice of receipt for interlibrary loaned materials mandatory from April 1
○ Lecture at the International Library of Children's Literature “Books I encountered in my childhood: Ms. Keiko Ochiai”
○ Kaleidoscope of Books (12) “Trips, Characters and Customs on Paper - Japanese Board Game Sugoroku of the Edo era”
○ Full-scale operation of the NDL Great East Japan Earthquake Archive “HINAGIKU” started
○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成 25 年 3 月号 (No.624)

発行所 国立国会図書館
編集責任者 田中久徳
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

平成 25 年 3 月 20 日発行 定価 525 円
(本体 500 円)

発売 社団法人日本図書館協会
〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
電話 03 (3523) 0812 (販売)
FAX 03 (3523) 0842
E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。本誌 517 号以降、PDF 版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



『雛の圖』から
清水晴風画 [明治年間] 自筆
1冊 25.8×18.0cm
<請求記号 寄別 5-5-4-4 >

国立国会図書館月報

平成 25 年 3 月 20 日 発行 (毎月 1 回 20 日 発行)
(3 月号 通巻 624 号)

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525 円 (本体 500 円)